

令和5年度 学校経営の基本方針

新潟市立下山中学校

1 はじめに

学校は、これからの複雑で変化の激しい社会に適応し「よりよく生き抜く力」を育むことが求められている。その使命を自覚し、学校も変わる社会に合った学びの場へと変えていかなくてはならない。また、どのような時代になっても学ぶ意欲に支えられた「確かな学力」、かかわる力や感動する心などの「豊かな心」、たくましく生きるための「健康や体力」は、よりよく生きるための不変の原理であり、流行と不易を踏まえながらもこれらの調和ある育成を図っていかなければならない。

当校は、地域住民の長年の切望が叶って創立された学校である。惜しめない支援を強みとして、学校と家庭、地域が目指す子ども像を共有し、具体的な手立てや方策について協働・展開を図ることで教育課題に迫り、期待に応えていく。

2 校訓と教育目標、及び目指す子ども像について

創立35周年目を迎えてなお色褪せない、校訓「青空の如く 海のごとく 阿賀の如く」、教育目標「大きな夢 広い心 やりぬく意志」ある生徒の育成を目指して組織的に取り組んでいく。また、下山中学校区で目指す子ども像を、創立の歴史とこれからの時代を踏まえ、「地域に誇りをもち、たくましく社会を創造する子ども」とし、協働していく。

3 当校の重点目標と鍛え込む資質・能力、実践の3重点について

当校の生徒は、地域の熱い思い、1小1中による丁寧で細やかな教育により、全体的に素直で従順である生徒が多い。反面、逆境への耐性が低く、心の弱さと向き合う前に諦めたり些細なことから不適応に起こしたりする生徒が少なくない。これからの社会を鑑みると、柔軟な見方や考え方を養い、心に折り合いをつけて粘り強く挑戦し、やり抜く力を身に付けさせることが喫緊の課題となる。

したがって、当校の重点目標を以下に掲げ、鍛え込む資質・能力の育成を目指す。教育活動の展開にあたっては、3つの窓に重点を置き、惑わされない心柱を確立しながら教育活動の精度を高めていく。

【重点目標】 しなやかな強さをもって 困難を乗り越える生徒

【鍛え込む資質・能力】

- ①自ら目標をもって挑戦する
- ②思いや考えを表明し具現化する
- ③気持ちや感情をコントロールする
- ④自の人のよさを理解し、よりよい人間関係を築く

【実践の3重点】(心柱の確立)

<学ぶ>真理を追求する <かかわる>豊かな心で共創する <自律する>自分に克ち挑戦する

4 基本方針

(1) 教育にあたる教職員のスタンス

教育は人なり。教育にあたる教職員のかかわり方が、教育活動の成否を握る。すべての教職員が以下のことばを合言葉に、高い他者意識のもとで個に応じた教育活動の展開にあたる。

- ◇「心のこもった教育」を、「あたたかい教育」を・・・謙虚、傾聴と受容、支援と応援に徹する。
- ◇「教育は一瞬にして永遠なり」・・・「教育のプロ」であることを自覚し、自らも学び、互いに磨き合い、高め合い、機を逃さず協働して最善を尽くす。

(2) 重点目標達成の視点

重点目標を達成するためには、心理的安全性が保障された支持的風土ある集団の醸成が不可欠である。その基盤の下で、教職員はすべての生徒が取り残されないよう、GIGAスクール環境の利活用による、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図っていく。また、教育活動の成果を高めるために、多面的な思考や成長を実感し自信を獲得する場や機会を意図的計画的に組織する。自己有用感を伴った自己肯定感の高まりから、レジリエンス（折れない心）を醸成、ひいてはやり抜く力（GRIT）を育成することで、重点目標に迫っていく。

【教育の基盤】

◎心理的安全性の保障、支持的風土が醸成された集団・環境づくりをする。

【全教育活動を通じた実践】

◎誰一人取り残さない特別支援教育の推進 ◇GIGAスクール環境の利活用

【教育課程推進上の努力事項】

◎系統的発展的探究的な活動を組織し、成功体験を累積させる。

◎多様な価値観に触れ、視野を広げる機会を意図的計画的に組織する。

◎インプット：アウトプット＝7：3から黄金比3：7の教育活動へ転換する。

5 つなぐ教育、つむぐ教育の実践と展開の重点3領域

これまで育んできた特色ある下山の教育を基盤に、学校内外の「人的資源」「物的資源」「環境的資源」を効果的に活用し、特色ある学校づくりを推進する。

○下山小学校と協働し、戦略的に小中一貫教育へ取り組み、教育の円滑な接続と協働を図る。

○学校運営協議会（CS）を核に「地域と学校P事業」を一層推進させ、各種教育活動を充実する。

○何らかの困り感のある生徒や特別な支援が必要な生徒へ外部機関と連携した教育を推進する。

つなぐ教育、つむぐ教育展開の重点3領域として道徳教育、特別活動、総合的な学習領域を位置づけ、自らの生き方を見つめ、実践し、よりよい生き方を探究させていく。

見つめる・・・特別の教科 道徳（道徳科）

実践する・・・特別活動（生徒会活動）

探究する・・・総合的な学習

外部人材を積極的に活用、直接（疑似）体験とアウトプットを重視する。事前事後における「意義付け・価値付け」の機会を工夫し、豊かな認め合い活動を組織する。



6 授業力、学力の向上について ～「なるほど・そうかあ」のある授業を追求する～

「質の高い学習課題とまとめ、振り返りのある授業」を推進し、「分かる」でよしとせず、「できる」、「好き・楽しい」を実感する生徒を増やす。そのために授業の黄金比「インプット：アウトプット＝3：7の授業」を目指し、「なるほど・そうかあ」のある授業を追求する。

○ICTの積極的利活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

○単元のデザインによる指導と評価の一体化を推進し、教師と生徒が課題を共有した授業を創造する。

7 その他大切にしていこう取組

○家庭・地域に信頼され、支え合う学校に向けて

各種たよりや学校HP等を充実し、家庭・地域への積極的な発信により、協働体制を確立する。

○安全・安心の確保に向けて

- ・命（人権）を最優先し、人権感覚を磨き、いじめの未然防止や早期発見・早期対応の取組を推進する。
- ・各種災害へ適切に対応できるよう、保護者、地域、関係機関と連携し、実践的な訓練を組織する。